

主要課題4 男女が健やかに安心して暮らせるまちづくり

男女が共に尊厳を持って暮らすためには、社会の中で自立し、健やかに安心して暮らせる環境整備を進めていくことが重要です。誰もが生涯を通じて心身ともに健康で安心していきいきと暮らすことができるように、男女の身体的特性を踏まえた適切な支援に取り組みます。

また、経済面・生活面等で困難を抱えがちな家庭に対しては、生活の安定と向上を支援し、高齢や障がいにより介護が必要な人に対しては、住み慣れた地域で生活し続けることができるよう支援します。

重点目標1 生涯を通じた男女の健康支援

男女がお互いの身体的特性を十分に理解し合い、相手への思いやりを持って生きていくことは、男女共同参画社会を形成する上で重要です。

男性も女性もライフサイクルを通じて異なる健康上の問題に直面することから、性別による特性を踏まえ、乳幼児期から思春期、更年期、高齢期に至るまで、人生のあらゆるステージにおける健康についての正確な知識や情報を得て、心身ともに健康を維持していくことが必要です。

また、低年齢層の性感染症や望まない妊娠等も社会問題化しており、これらの問題は自分自身に健康被害をもたらすほか、次世代への影響も懸念されます。

こうした状況を踏まえ、相談体制の整備や学習機会の提供を通じて、性や健康に関する教育の充実や“自分の健康は自分で守る”という意識の醸成を図ります。

施策の方向	施策の内容
①ライフステージに合わせた健康の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> ○性や妊娠・出産等について正しく理解できるよう、意識啓発や教育を行います。 ○ライフステージに応じて直面する健康上の問題について男女がお互いに理解し合い、主体的に健康の保持・増進を図ることができるよう健康に関する知識を普及するとともに、母子を含む各種健康診査事業や健康教育事業の充実を図ります。

重点目標2

誰もが安心して暮らせる環境の整備

近年の不安定な社会情勢や経済情勢等から、母子・父子のひとり親家庭が増加傾向にあります。ひとり親家庭では、仕事・家事・子育て等の全てを一人で担う必要があることから、身体的、経済的な負担を軽減するための支援を行うとともに、安心して生活できるよう相談体制の充実を図ることが重要です。

また、少子高齢化が進む中、高齢者のみの家庭も増加しており、介護の問題をその家庭だけで解決することが困難な状況になっています。実際に介護を誰が行っているかについて、市民アンケートによると、「主に女性」が 54.6%、「男女とも同程度」が 39.5%、「主に男性」が 5.9%となっており、女性が介護に携わる比重が高くなっています。さらに、介護に関する支援については「基本的に家族が行うほうがよい」が 10.6%であるのに対し、「家族だけでは過重な負担がかかるので、社会による積極的な支援が必要である」が 80.2%と大多数を占めています。(図表 24・25)

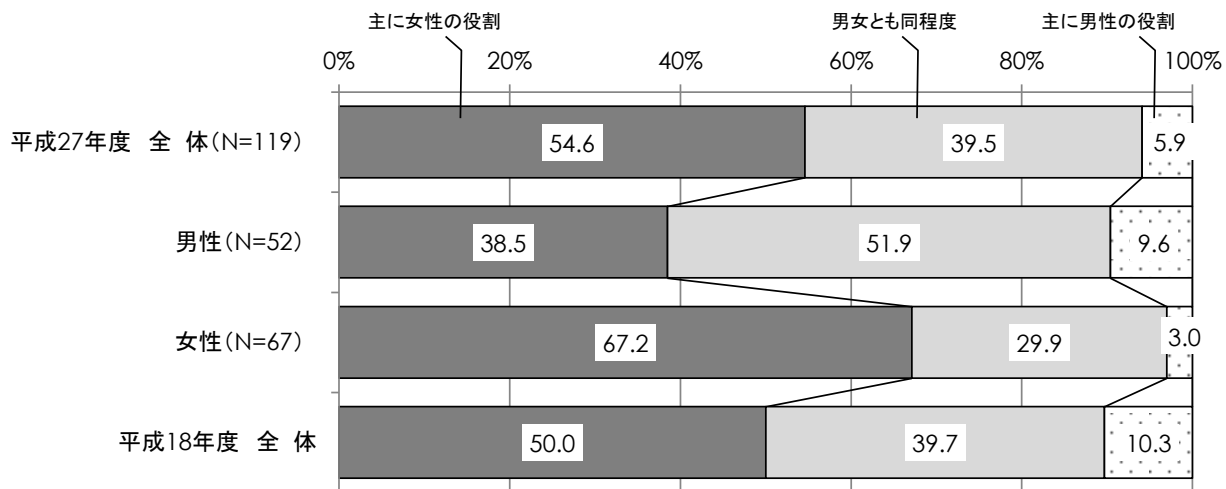
誰もが住みなれた地域で継続して生活するためには、介護等における意識の改革を図るとともに、医療・生活支援など様々な分野において、男女が共に参画しながら高齢者や障がい者を地域社会全体で支えていく必要があります。

施策の方向	施策の内容
①ひとり親家庭等への支援	○ひとり親家庭の父母や子どもの生活の安定のため、各種の自立支援事業や相談事業の充実を図ります。
②高齢者、障がい者等が安心して暮らせる環境の整備	○男性の介護に対する意識の改革を促します。 ○介護休暇の取得を促進します。 ○高齢者や障がい者が、できる限り住み慣れた地域で自立した生活が送れるように、介護保険サービスや社会福祉サービスの充実を図ります。



主要課題4 男女が健やかに安心して暮らせるまちづくり

【図表 24】 介護の役割分担について



【図表 25】 介護に関する支援

